

八頭町人口ビジョン

鳥取県八頭町

平成 27 年 9 月

令和 2 年 3 月改定

令和 7 年 3 月改定

はじめに

本町では、「第2次八頭町総合計画」（平成27年度～令和6年度）において、人口減少対策を重点プロジェクトに位置付け、同時に「八頭町人口減少対策ビジョン」（平成27年度～令和元年度）を策定し、人口減少対策に取り組んできました。

また、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（平成26年12月策定）、県の「鳥取県人口ビジョン」（平成27年10月策定）に合わせ、本町においても、平成27年10月に「八頭町人口ビジョン」を策定し、「八頭町総合戦略」（平成27年度～令和元年度）により、人口減少対策と地方創生に取り組んできました。

令和2年3月には、近年の人口減少・少子高齢化の現状を把握し、今後の将来展望を見直し、示すことで、本町の「第2次八頭町総合計画」及び「第2期八頭町総合戦略」等の取り組みの方向性に資するものとするため、「八頭町人口ビジョン」を改定したところです。

この度、本町の「第3次八頭町総合計画」及び「第3期八頭町総合戦略」を策定するに当たり、令和5年12月に、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という）「日本の将来推計人口（令和5年推計）」が公表した新たな人口推計を踏まえ、「八頭町人口ビジョン」を改訂します。

I 基本的な考え方

1 ビジョン策定の趣旨・位置づけ

国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」、県の「鳥取県人口ビジョン」を勘案し、八頭町の人口の現状を分析し、人口に関する住民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示する。

2 推計期間

2070 年(令和 52 年)まで

II 人口ビジョン

【全国的な動き】

国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、日本の総人口は、2008 年の 1 億 2,808 万人をピークに減少局面に移行しており、2018 年 10 月 1 日時点の総人口は 1 億 2,644 万 3 千人、2018 年の出生数は 1899 年の調査開始以来最低の 91 万 8 千人を記録した。

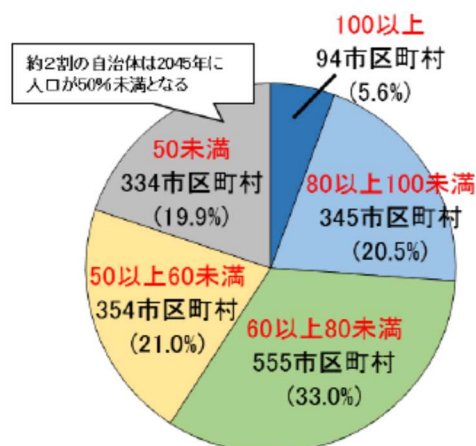
社人研「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」の出生中位（死亡中位）推計によると、2020 年代初めは毎年 50 万人程度の減少であるが、それが 2040 年代頃には毎年 90 万人程度の減少スピードにまで加速し、2060 年の総人口は 9,284 万人にまで減少するとされている。

社人研「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年推計）」によると、各市区町村の 2015 年の総人口を 100 としたとき、2045 年に指数が 100 を超える、すなわち 2015 年より総人口が増えるのは 94 市区町村（全市区町村の 5.6%）と推計されている。残る 1,588 市区町村（94.4%）は指数が 100 未満である。このうちの 334 市区町村（19.9%）では指数が 50 未満、すなわち 2015 年に比べて総人口が半分を下回ると推計されている。

社人研「日本の地域別将来推計人口（令和 5 年推計）」によると、出生中位推計に基づけば、日本の総人口は、2020 年（1 億 2,615 人）以後長期の減少過程に入り、2045 年の 1 億 880 万人を経て、2056 年には 1 億人を割って 9,965 万人となり、2070 年に 8,700 万人まで減少するとされている。

地方の人口が減少し、地方から大都市への人材供給が枯渇すると、いずれ大都市も衰退する。地方から始まり、既に地方の中核都市にも及んでいる日本の人口減少は、最後は大都市を巻き込んで広がっていく。

2045 年における総人口の指数別市区町村数と割合

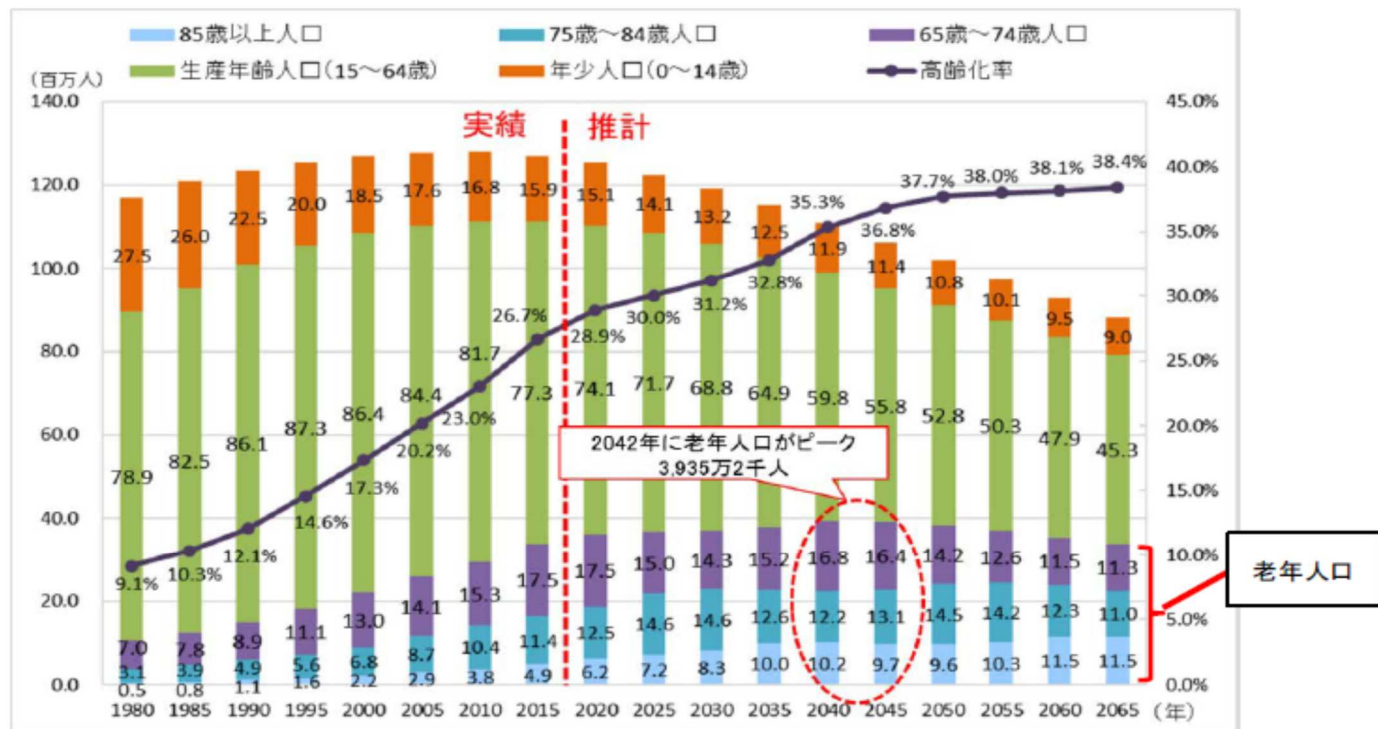


(資料：内閣府「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」抜粋)

※赤字は「2015年の人口」=100とした場合の「2045年の人口」

2018年10月1日時点で、日本の老年人口(65歳以上)は3,557万8千人で、高齢化率(総人口に占める老年人口の割合)は28.1%となった。社人研「日本の将来推計人口(平成29年推計)」によると、老年人口は増加を続け、2042年に3,935万2千人で、ピークを迎えると推計されている。その後、総人口の減少とともに老年人口も減少するが、高齢化率は上昇を続け、2060年には38%を超える水準まで高まると推計されている。

年齢区分別人口の実績と将来推計



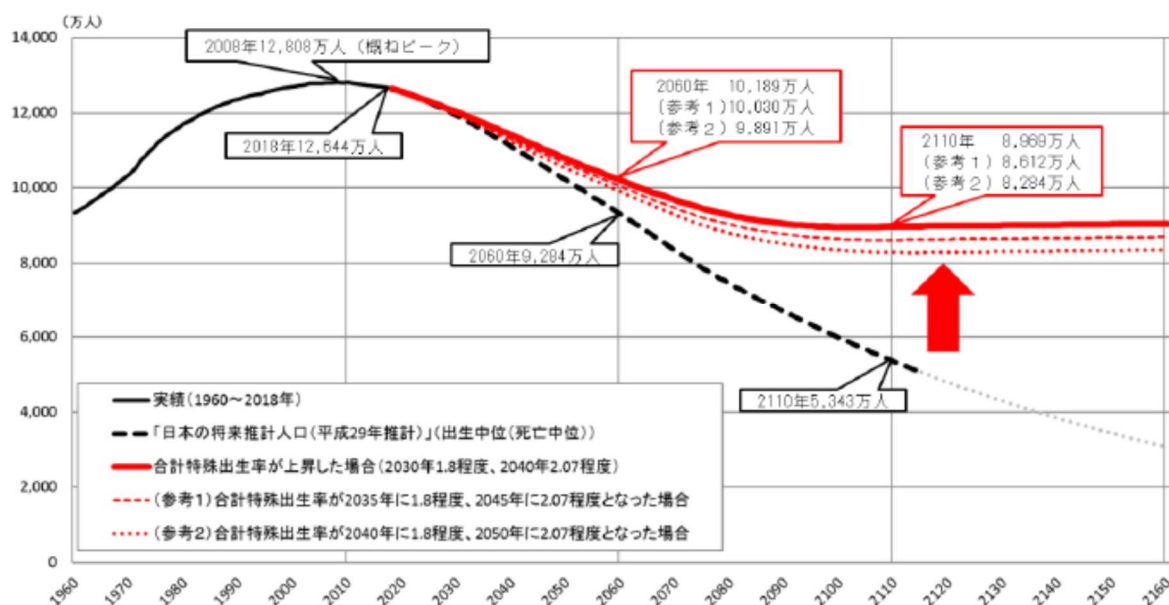
(2015年までの実績) 総務省「国勢調査」において年齢不詳を按分のうえ作成。

(2020年以降の推計) 社人研「将来推計人口(平成29年推計)」(出生中位(死亡中位))により作成。

こうした状況を踏まえ、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、若い世代の結婚・出産・子育ての希望の実現に取り組み、出生率の向上を図ることで、2040年に

生率が人口置換水準と同程度の値である 2.07 とし、2060 年に総人口 1 億人の確保を目標とし、将来にわたって、過度な一極集中のない活力ある日本社会を維持することを目指している。

国の人口の推移と長期的な見通し



(注 1) 実績は、総務省「国勢調査」等による（各年 10 月 1 日現在の人口）。

社人研「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」は出生中位（死亡中位）の仮定による。

2115～2160 年の点線は 2110 年までの仮定等をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において、機械的に延長したものである。

(注 2) 「合計特殊出生率が上昇した場合」は、経済財政諮問会議専門調査会「選択する未来」委員会における人口の将来推計を参考にしながら、合計特殊出生率が 2030 年に 1.8 程度、2040 年に 2.07 程度となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。

(注 3) 社人研「人口統計資料集 2019」によると、人口置換水準は、2001 年から 2016 年は 2.07 で推移し、2017 年は 2.06 となっている。

1 人口の現状分析

(1) 人口動向分析

八頭町の総人口は、1980 年(昭和 55 年)から 1985 年(昭和 60 年)にかけてやや増加したものの、これ以降、急速に減少している。

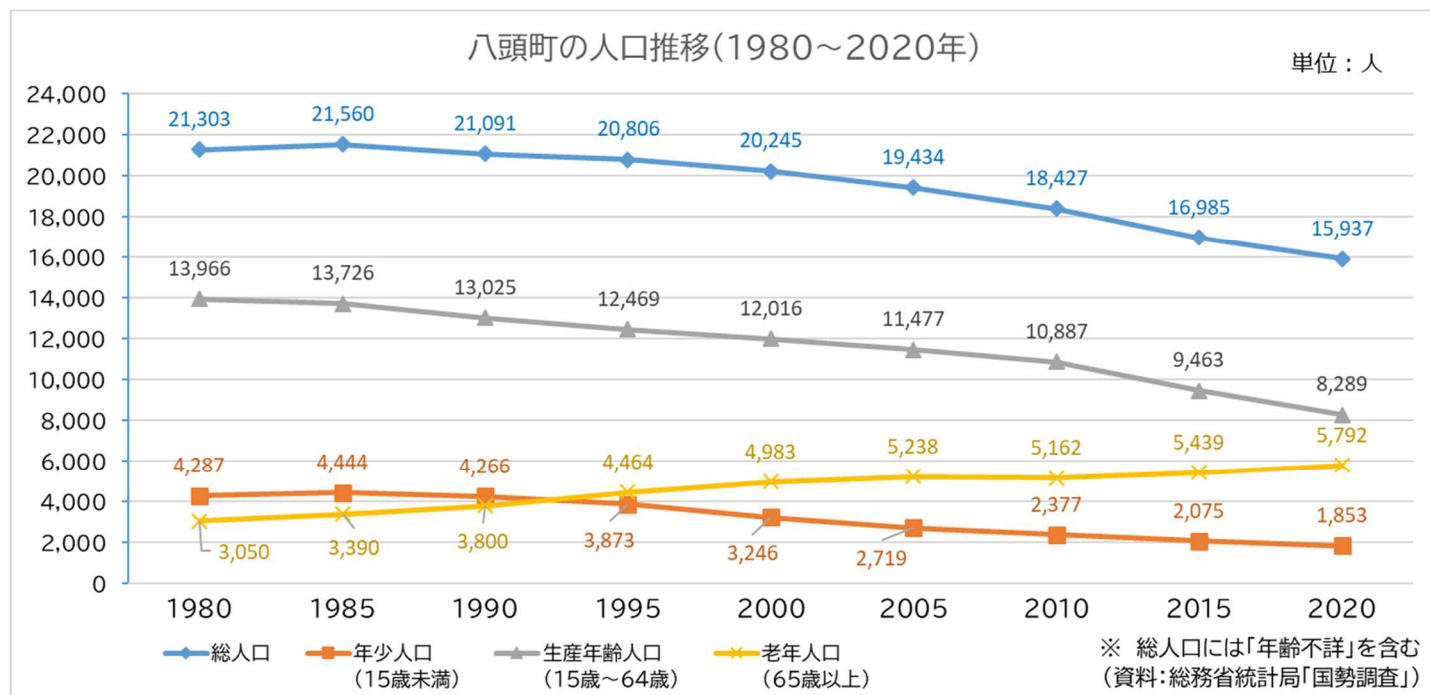
年少人口(15 歳未満)についても、1985 年(昭和 60 年)の 4,444 人以降減少を続けており、2015 年(平成 27 年)には、当該年と比較して半数以下に減少している。

また、老年人口は、1990 年代前半には年少人口を上回り、2005 年(平成 17 年)から 2010 年(平成 22 年)にかけて微減しているものの、概ね国勢調査年ごとに 1 割ずつ増加しており、既に年少人口の倍以上の数値となっている。

年少人口割合は、鳥取県全体と比べて低い水準で推移している一方、老年人口割合は、高い水準で推移しており、少子高齢化が県全体と比べても早い段階で進行していることがうかがえる。

合計特殊出生率については、年ごとの変動が大きいものの、近年、国全体を上回る水準となっており、年によっては鳥取県全体も上回っている。

八頭町の人口推移



八頭町の年齢別人口割合の推移

単位%

	昭和 55年 (1980年)	昭和 60年 (1985年)	平成 2年 (1990年)	平成 7年 (1995年)	平成 12年 (2000年)	平成 17年 (2005年)	平成 22年 (2010年)	平成 27年 (2015年)	令和 2年 (2020年)
年少 人口	20.1 【21.6】	20.6 【21.2】	20.2 【19.2】	18.6 【17.1】	16.0 【15.3】	14.0 【14.0】	12.9 【13.4】	12.2 【12.9】	11.6 【12.5】
生産年 齢人口	65.6 【66.0】	63.7 【65.0】	61.8 【64.5】	59.9 【63.6】	59.4 【62.6】	59.1 【61.9】	59.0 【60.3】	55.7 【57.3】	52.2 【55.0】
老年 人口	14.3 【12.3】	15.7 【13.7】	18.0 【16.2】	21.5 【19.3】	24.6 【22.0】	27.0 【24.1】	28.0 【26.3】	32.0 【29.7】	36.3 【32.5】

(資料：総務省統計局「国勢調査」)

下段【 】は鳥取県全体の数値

合計特殊出生率の推移

	平成 26 年 (2014 年)	平成 27 年 (2015 年)	平成 28 年 (2016 年)	平成 29 年 (2017 年)	平成 30 年 (2018 年)	令和 1 年 (2019 年)	令和 2 年 (2020 年)	令和 3 年 (2021 年)	令和 4 年 (2022 年)
国	1.42	1.45	1.44	1.43	1.42	1.36	1.33	1.30	1.26
鳥取県	1.60	1.65	1.60	1.66	1.61	1.63	1.52	1.51	1.60
八頭町	1.61	1.30	1.49	1.34	1.43	1.58	1.69	1.34	1.64

(資料：厚生労働省「人口動態調査」、鳥取県福祉保健課「人口動態統計」)

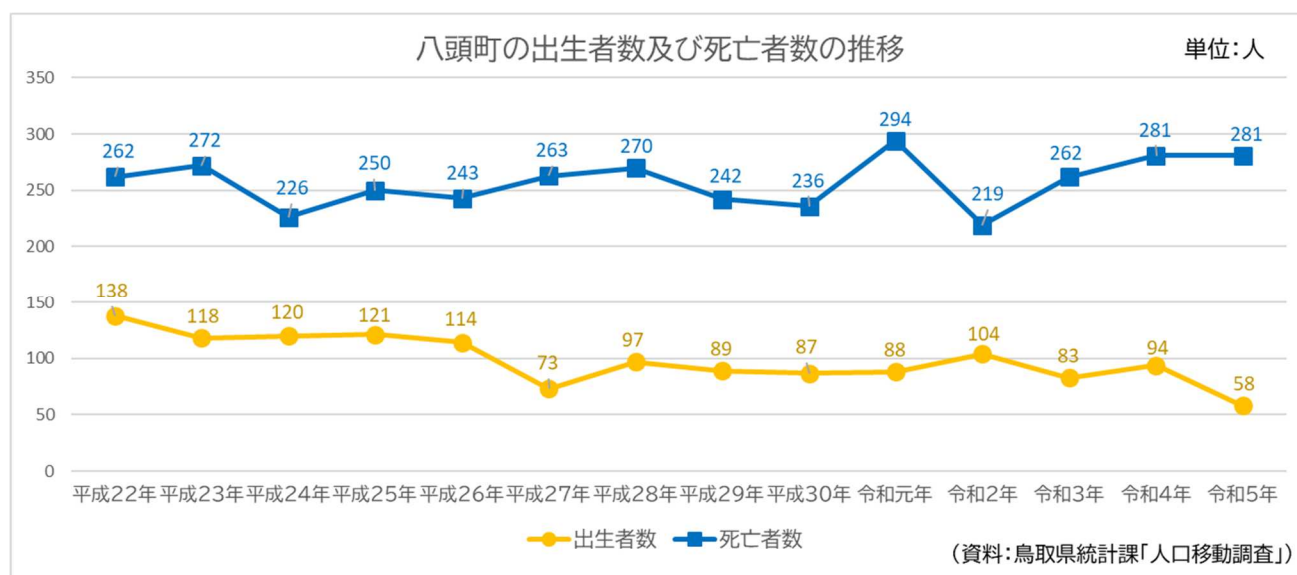
(2) 将来人口の推計と分析

八頭町では、死亡者数が出生者数を上回る自然減の状態と、転出者数が転入者数を上回る社会減の状態が続いている。自然減については、平成21年からの推移をみると死亡者数は概ね毎年250人程度の横ばいで推移しているものの、出生者数はやや減少傾向にあり、減少幅は広がりつつある。

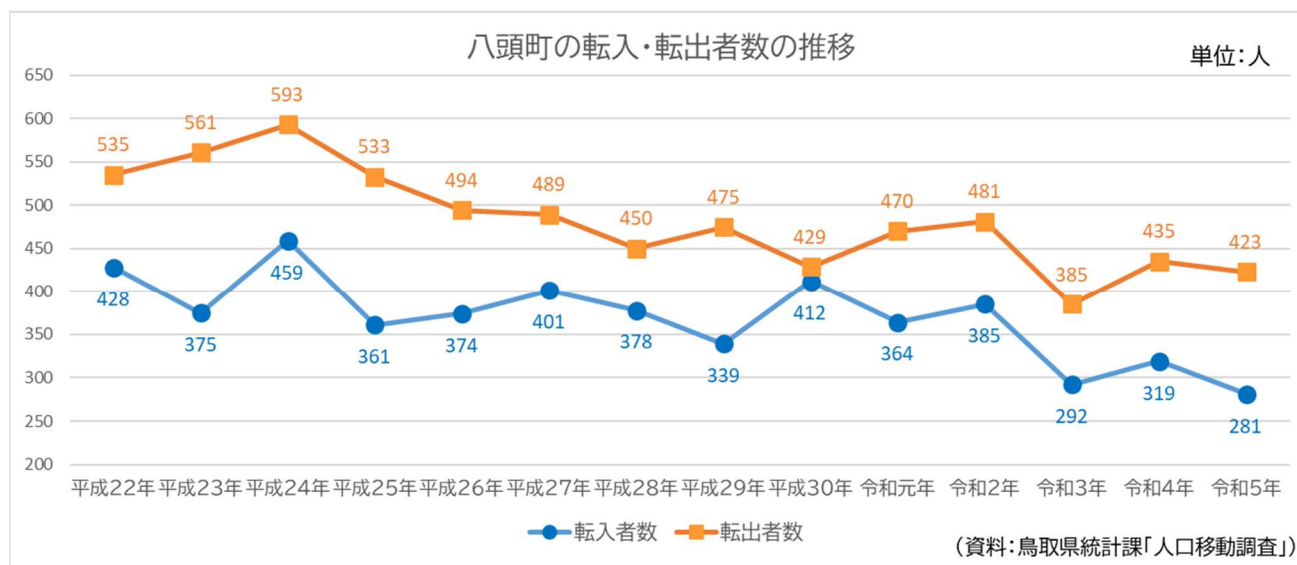
また、社会減については、転出者数、転入者数とも減少傾向にあるが、両者の差は縮まっていく傾向を示している。

人口移動の状況については、転入者、転出者ともに県内での移動の割合が高くなっている。

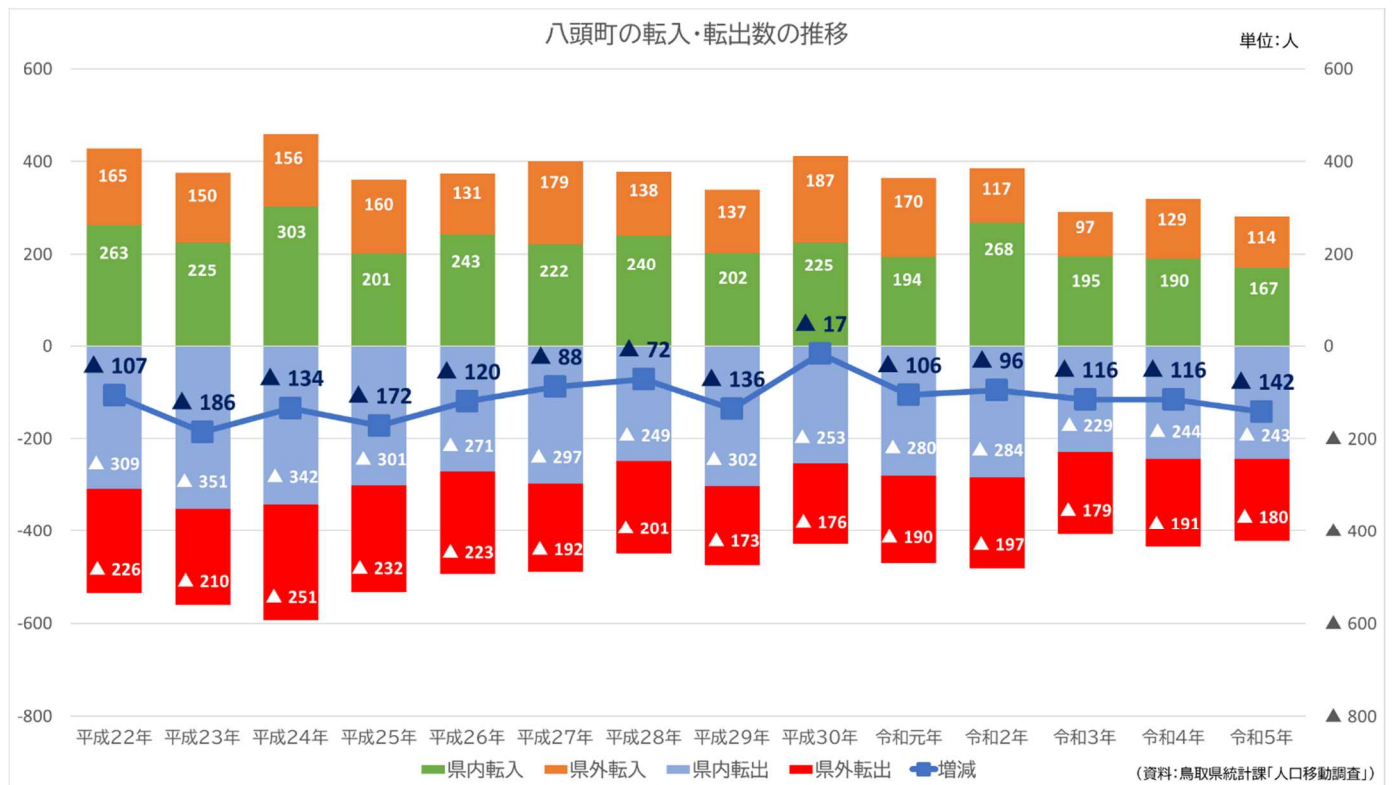
八頭町の出生者数・死亡者数の推移



八頭町の転入・転出者数の推移



人口移動の状況

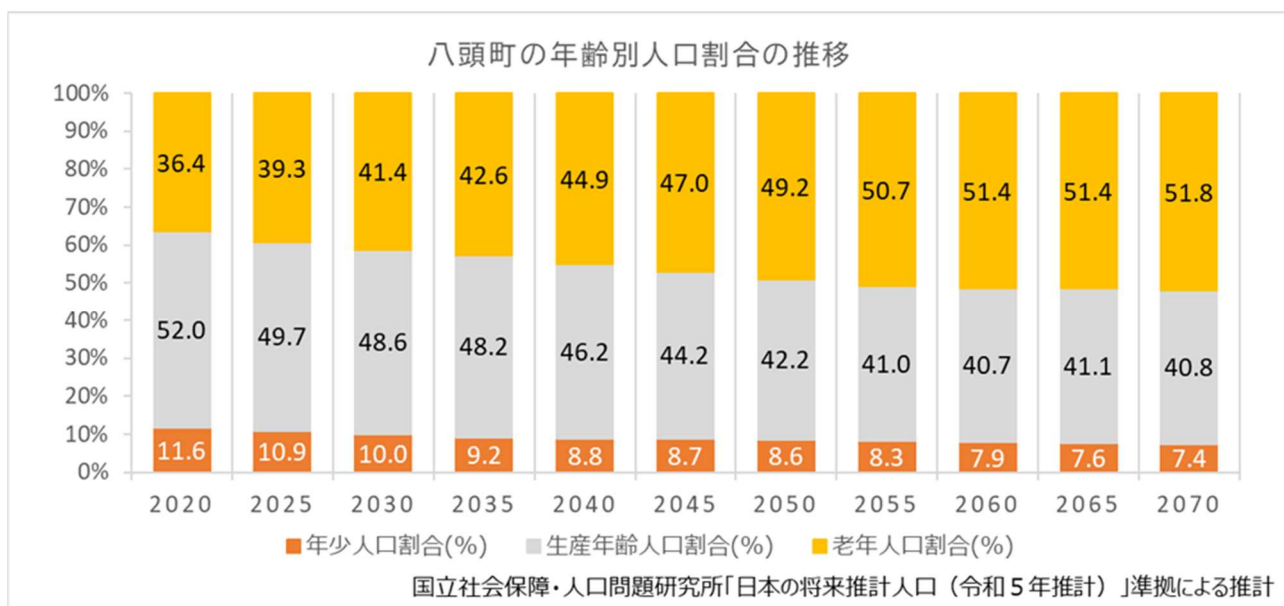
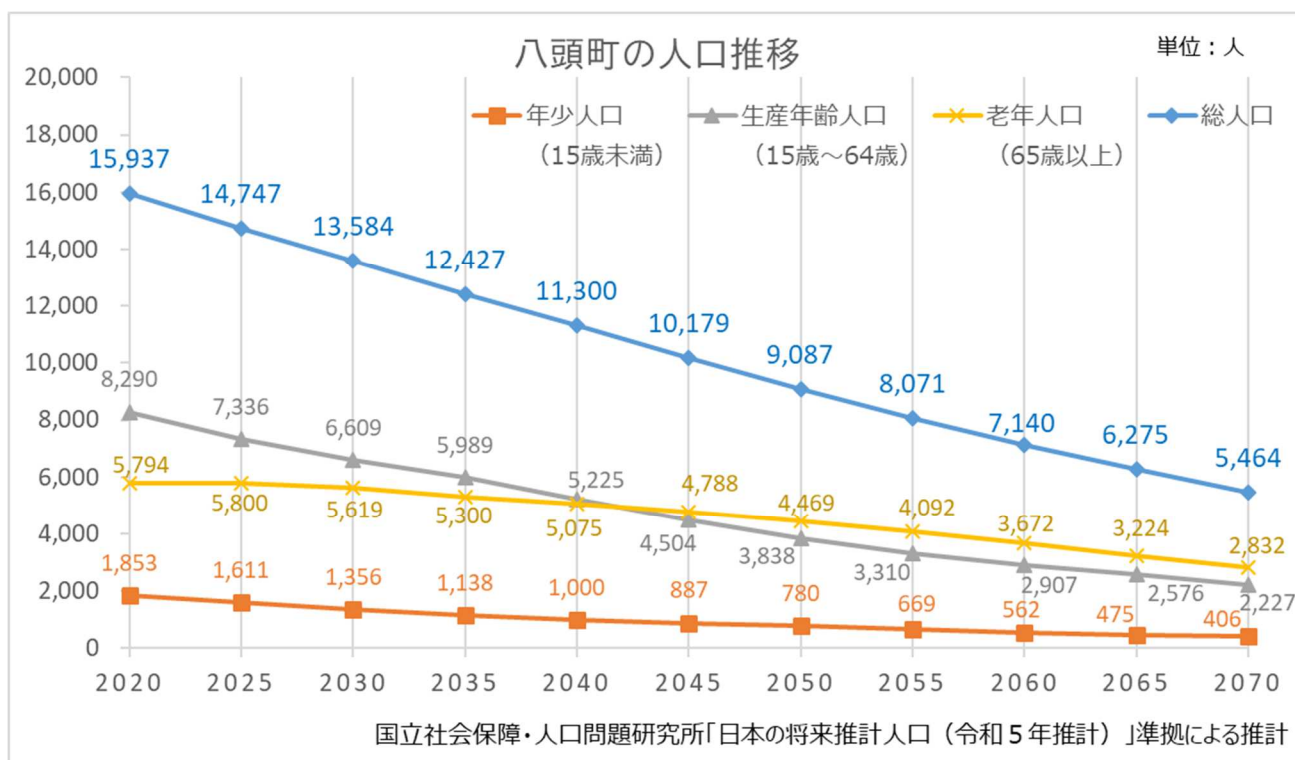


(3) 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

八頭町の人口について、社人研「日本の将来推計人口(令和5年推計)」準拠の推計によると、2070年(令和52年)には6,000人を下回ると推計されている。老年人口は2025年(令和7年)をピークに減少に転じるが、その割合は上昇し続け2055年(令和37年)には50%を超える。

こうした形で少子高齢化の進行と過度の人口減少が進むことにより、生産年齢人口(15歳～64歳)の減少による産業活動の低迷、地域活力の低下、集落機能の維持が困難となるなど様々な問題が懸念される。

八頭町の将来人口推移



注) 小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計値が100にならない場合がある。

2 人口の将来展望

(1) 目指すべき将来の方向

① 取組の基本的視点

過度の少子高齢化、人口減少を抑えつつ、一方で、人口減少自体は避けられない課題であることから、「人口減少の進行の緩和」及び「人口減少により生じる課題への対応」という2つの視点が必要である。

② 目指すべき姿とその実現に向けた方策

上記視点のもとで「第3次八頭町総合計画」に掲げるまちの将来像である「未来をつなぐ 八頭の力 みんなで創る活力あるまち」の実現に向けて、以下の重点目標・取り組みを行います。

重点目標	取組分野	取組内容
1. 誰もがいきいき活躍し笑顔あふれるまちづくり	産業振興 全世代活躍 健康増進 地域福祉	① 地域産業の振興と稼ぐ力の強化 ② 誰もが活躍できる地域社会の構築 ③ 生涯活躍に向けた健康づくりの推進
2. みんなでともに子どもの笑顔を育むまちづくり	子育て支援 人材育成 教育	① 出会いや出産、子育てを支援する取組 ② 子どもを育む社会環境の整備 ③ 将来世代の育成と教育環境の整備
3. 笑顔でつながる人と地域がふれあうまちづくり	観光振興 移住定住促進 交流推進 関係人口拡大	① 地域資源を生かした観光振興と受入環境の整備 ② 空き家対策等による移住定住の促進 ③ 国内外の交流の促進と関係人口拡大
4. 暮らしを支え笑顔が続く安心安全のまちづくり	地域交通維持 買い物環境等確保 災害対策	① 地域公共交通、買い物環境等の確保 ② 災害への備えと防犯対策の推進

(2) 人口の将来展望

【目標人口】

2050 年(令和 32 年) : 10,500 人 / 2070 年(令和 52 年) : 8,500 人

合計特殊出生率の向上や社会移動による減少の逓減・解消を達成することにより、上記目標人口を維持することを目標とします。

こうした状況になることで、男女別・年齢階級別人口推移は、2020 年(令和 2 年)での 60 歳～70 歳の階級別人口が突出しアンバランスな形状から、2070 年(令和 52 年)には不均衡が是正された形状に推移し、人口構造が安定する、本町の目指すべき姿に近づきます。

推計条件の概要

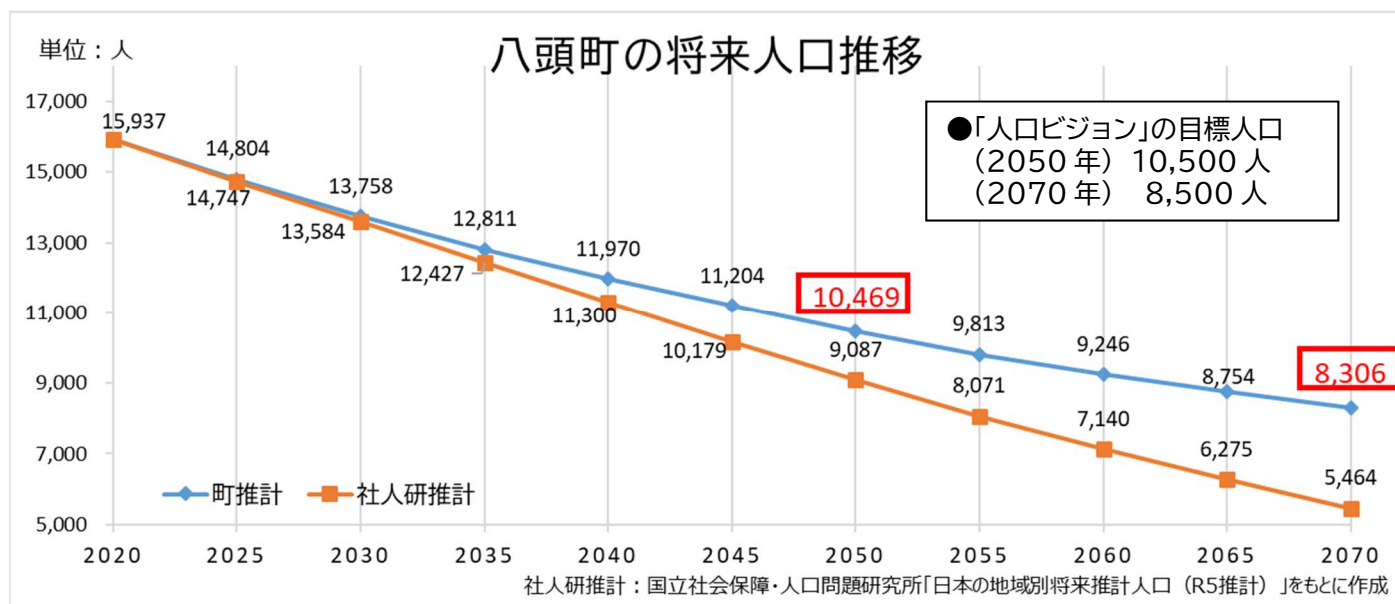
区 分	社人研推計	町推計
基準人口	2020 年(国勢調査人口)	2020 年(国勢調査人口)
合計特殊出生率	1.55～1.57 で推移。	2025 年 1.64(八頭町の直近(2022 年)実績値) 2035 年 1.80(国民希望出生率) 2040 年 1.95(県民希望出生率) 2045 年 2.07(人口置換水準値) その後は一定。
移動率	2020 年～2025 年の社会移動傾向が 2050 年まで続き、その後は 2045～2050 年相当の減少率で推移。	2020 年～2025 年の社会移動傾向は、社人研推計と同様。その後 2025 年～2040 年の社会移動傾向が 5 年ごとに 25%ずつ減少し、その後は社会減なし。

※合計特殊出生率：1 年間における 15～49 歳の女性の年齢別出生率を合計した値

※希望出生率：子どもを産み育てたい人の希望を妨げる要因を取り除き、希望が叶った場合の出生率

※人口置換水準：人口が増減しない均衡した状態となる合計特殊出生率の水準

※移動率：t 年の年齢 x～x+4 歳の人口に関する t 年～t+5 年の 5 年間の移動数(転出入超過数)を、期首(t 年)人口で割った値。



男女別・年齢階級別人口推移

